

目次

- (1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ
 - ネットワーク総会兼交通バリアフリー推進全国大会開催のお知らせ
 - 交通バリアフリー推進セミナー報告書を作成

- (2) ネットワーク参加団体の活動報告
 - ST ネット第1回学習会「移送サービスは違法サービスか？」（東京ハンディキャブ連絡会）
 - 夢のような本当の会議 - 全国介護移送シンポジウム2002 - （東京ハンディキャブ連絡会）
 - きょうと移動ネットワークミーティング（東京ハンディキャブ連絡会）
 - 2002年第6回DPI世界会議札幌大会への協力について（東京ハンディキャブ連絡会）

- (3) エコモの活動報告
 - 情報提供マニュアル事業を実施
 - らくらくおでかけネット
 - 公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について
 - 小型船舶免許もバリアフリー
 - 旅客施設における音による移動支援方策ガイドライン策定へ

- (4) 行政の活動報告
 - 地方運輸局の組織再編の実施について
 - 交通バリアフリー法基本構想策定状況
 - みんなの駅パンフレット作成

- (5) 各種催し物のお知らせ
 - 交通バリアフリーセミナー
 - 第5回日本福祉のまちづくり学会
 - 土木学会全国大会第57回年次学術講演会
 - 第6回DPI世界会議
 - 第26回土木計画学研究発表会（秋）大会
 - 国際ユニバーサルデザイン会議2002

- (6) その他
 - 書籍に関して
 - 記事募集中
 - お願い（必ずお読みください。）
 - ・転送先について
 - ・送付先について

コラム

(1) バリアフリー推進ネットワークからのお知らせ

ネットワーク総会兼交通バリアフリー推進全国大会開催のお知らせ

7月10日(水)にバリアフリー推進ネットワーク幹事会(準備会)が開かれ、バリアフリー推進ネットワークの皆様にご意見をお伺いしていたネットワーク幹事会設置の件、ネットワーク総会兼交通バリアフリー推進全国大会開催の件、バリアフリー優秀事例に感謝状贈呈の件が原案どおり了承されました。運営の中核となる幹事には、設立発起人である財団法人全国老人クラブ連合会、社会福祉法人日本身体障害者団体連合会、社会福祉法人日本盲人会連合、財団法人全日本聾唖連盟、主婦連合会、土木学会高齢社会における交通システム整備の体系化に関する小委員会、日本福祉のまちづくり学会、DPI 日本会議、財団法人交通エコロジー・モビリティ財団の9団体が就任いたしました。

交通バリアフリー法が施行された日を記念し、11月15日(金)にネットワーク総会兼交通バリアフリー推進全国大会が開催されることとなりました。詳細が決定次第、ご案内いたします。

日時: 11月15日(水) 13:30~17:00

場所: 国立オリンピック記念青少年総合センター 渋谷区代々木神園3-1

また、優秀事例については8月を目途に公募していく予定です。

交通バリアフリー推進セミナー報告書を作成

先月号でもお知らせしましたが、昨年1年間で、全国10カ所で開催しました交通バリアフリー推進セミナーの報告書を作成しました。ご希望の方は、ご連絡ください。

(2) ネットワーク参加団体の活動報告

ST ネット第1回学習会「移送サービスは違法サービスか?」(東京ハンディキャブ連絡会)

移送・移動サービスは、道路運送法の第80条の中で「白タクではないのか?」などと言われ違法なサービスだという認識があります。しかし一方で移送・移動サービスは、社協を含めるとおよそ2000団体がこのサービスを実施しています。本当に障害者・高齢者にとって必要なサービスであり30年間続けて来たこのサービスは違法なのか、今回の学習会では、札幌弁護士会から講師をお招きし法律的立場から移送サービスの違法性などについて学習します。

日時 7月27日(土) 13:30~15:30

会場 リンケージプラザ2F 北海道札幌市中央区北一条西9丁目

講師 札幌弁護士会

参加費 STネット加盟団体 無料、一般参加者 500円(資料代)

問合せ・申込み先 北海道移送・移動サービス連絡会(STネット北海道)

〒065-0020 北海道札幌市東区北二十条東1丁目5-1

大西ビル1F ホップ障害者地域生活支援センター内

TEL 011-748-6220 FAX 011-748-6221

夢のような本当の会議 - 全国介護移送シンポジウム2002 - (東京ハンディキャブ連絡会)

介護タクシー事業者の団体である「全国介護タクシー連絡研究会」では、介護タクシー事業者決起大会を開催いたします。メインの企画として「介護移送サービスの未来を語る」というパネルディスカッションを行い、国土交通省や厚生労働省(予定)、介護会社、ボランティア・NPO代表、利用者から意見を発表してもらいます。

当連絡会の阿部代表もパネラーとして発表する予定です。

日時 7月19日(金) 15:00~17:30 懇親会 18:00~20:00

会場 ホテルエドモンド 東京都千代田区飯田橋3-10-8

参加費 10,000円(懇親会会費含む)

内容 走れ介護タクシー(VTR)

パネルディスカッション「介護移送サービスの未来を語る」

問合せ・申込み先 全国介護タクシー連絡研究会

〒762-0046 香川県坂出市富士見町2-5-3

TEL 0877-476-0757 FAX 0877-476-0751
E-mail kchit@mail.kbn.ne.jp

きょうと移動ネットワークミーティング（東京ハンディキャブ連絡会）

京都移動サービス連絡協議会では、京都府内で活動する移動サービス団体及びその関係者を対象に、「団体間の横のつながりをつくり、今後の活動に活かす」「情報やノウハウを共有し、移動サービス活動が担うべき社会的役割を明確にする」「移動サービスに関する様々な課題をネットワークを活かして取り組む」という3つをテーマに、その解決に向けた取り組みのきっかけづくりの場として「きょうと移動ネットワークミーティング」を開催いたします。

日時 7月27日（土）13:00～16:30

会場 京都社会福祉会館 1F会議室 京都府京都市上京区堀川通丸太町下ル・二条城北側）

参加費 500円

内容 報告「移動サービス法制化の動きについて」
事例報告「移動サービスの現状と未来展望」

問合せ・申込み先 京都移動サービス連絡協議会

〒604-8155 京都府京都市中京区烏丸錦西入占出山町308 山忠ビル2F
TEL&FAX 075-223-5291 E-mail office@npo-net.or.jp

2002年第6回DPI世界会議札幌大会への協力について（東京ハンディキャブ連絡会）

2002年10月15～18日に北海道札幌市において、世界各国から約2000名の障害のある方々が集まりDPI札幌大会が開かれます。この大会への海外からの参加者が經由する成田空港～羽田空港間を中心とする送迎について、東京ハンディキャブ連絡会では、埼玉県移送サービスネットワークと横浜移動サービス協議会の3団体で共同してあたります。

先日3団体の代表とDPI事務局との話し合いが行われ、概要が決定いたしましたので、お知らせいたします。

1. 移送サービスの対応期間・対応方法

- ・10月12～14日（成田空港～羽田空港）と19～20日（羽田空港～成田空港）を中心に対応する。
- ・大会前に来日する世界評議員については、別途主催者からの情報提供により個別対応する。
- ・大会開催期間中（10月15～18日）については、主催者からの特別の求めがない限り対応しない。
- ・原則としてリフト付き普通車による対応とするが、人数が集中した場合は移送サービス団体の所有するリフト付きバスを活用することも検討する。

2. 運行経費

- ・成田空港～羽田空港間の運行経費（利用料）は協力運行団体共通とし、各空港までの回送料を設定して、団体毎の走行距離の違いに対処する。
- ・回送料については埼玉・東京・横浜とも平均値を概算して、それを回送料とする。

3. その他

- ・各空港での誘導・介助ボランティアを募集する。地元のボランティアセンター及び各団体で募集を行う。

実際の送迎スケジュールについては、今後調整いたしますが、期間中送迎にご協力していただける団体は、東京ハンディキャブ連絡会までご連絡をお願いいたします。

送迎協力についてのお問合せは、東京ハンディキャブ連絡会または、埼玉県移送サービスネットワーク、横浜移動サービス協議会までお願いいたします。

（3）エコモの活動報告

情報提供マニュアル作成事業を実施

視覚障害者や聴覚障害者等の情報制約者に対する鉄道利用に関わる交通情報の提供についての調査を進めております。現在の情報提供の実態把握、及びその課題を明らかにし、円滑に交通機関を利用できることを目標とする情報提供に関する各交通事業者共通のマニュアルの作成を目指しております。

今まで駅をご利用になった際に、お困りになったこと、お気づきになったこと、よかったこと等がございましたら、ご意見や路線名や駅名等をお寄せください。ご意見を頂く際は、ご所属、お名前、連絡先(住所、電話番号、FAX番号、E-mail等)をお書きの上、ecomomail@ecomomail.or.jpもしくはFAX 03-3221-6674までお送りください。

らくらくおでかけネット

ご存じですか。らくらくおでかけネット(交通バリアフリー情報提供システム)を本年1月から開始しております。これは、インターネットや携帯端末を使って、エレベーターの設置状況、身体障害者対応型トイレの設置状況などをバリアフリーの最適なルートが探索できます。1月の運用開始からこれまで(6月30日)220,498件(1,404件/1日)のアクセスがありました。皆様のご意見をお待ちしております。

アドレス:(パソコン版)<http://ecomomail.or.jp/rakuraku/index/>
(携帯版=i-mode,j-sky)<http://ecomomail.or.jp/rakuraku/mobile/>
(携帯版=EZ-web)http://ecomomail.or.jp/rakuraku/mobile_ez/

公共交通ターミナルのバリアフリー度評価について

前回のメールマガジンにて「公共交通ターミナルのバリアフリー度評価に関する簡易評価マニュアル」を公開した旨のお知らせを致しました。

本評価マニュアルは、あくまでも地域のボランティア、市民グループ、学生の皆様などが自主的に評価に取り組みまれる時(地域の基本構想作成時などが考えられます)にお役立ていただく方法として、提供させていただいておりますので、是非ともご自由にお使いいただければと思います。なお、弊財団より、評価を行う旨の依頼を皆様に行っているものではありませんので、誤解のないよう、よろしくお願いたします。

小型船舶免許もバリアフリー

平成13年11月に船舶職員法施工規則等が改正され、身体検査基準が障害の状態等から能力基準となり、障害者の免許取得の機会が拡大しました。これに伴い、7月9日・10日横浜ベイサイドマリナー等で、障害者に対する小型船舶免許教習指導者を養成するための講習会が開催され、エコモから講師を派遣いたしました。主催者は国土交通省の外郭団体(財)マリンスポーツ財団が行いました。障害のある方も小型船舶免許の教習を安全に、快適に受けられ、免許を取得できるように、教習指導者に対し、障害の理解とニーズを的確に把握した対応等について、学科、実技の講習を行いました。内容はバリアフリーの現状、新制度における身体機能検査の概要と現状、障害者論・介助法と実施シミュレーション、設備改造の活用、実技科目の内容等について、専門家による講習が熱心に行われました。

ヨットやジェットスキー、釣りなどマリンスポーツを大いに楽しむことができる小型船舶の免許はいかがですか。(お問合せ先:マリンスポーツ財団 TEL03-3543-7343、FAX03-3543-7328 担当:永来、梅田)

旅客施設における音による移動支援方策ガイドライン策定へ

昨年の7月より、国土交通省の委託を受け、視覚障害者の音による移動支援方策ガイドライン作成のために調査を行って参りました「旅客施設における音による移動支援方策に関する研究会」(委員長:秋山哲男東京都立大学大学院教授)が、7月10日に終了いたしました。今秋には、昨年8月に発刊されました「公共交通機関旅客施設の移動円滑化整備ガイドライン」の追加ガイドラインとなる予定です。

(4) 行政の活動報告

地方運輸局の組織再編の実施について

7月1日に国土交通省地方運輸局に組織変更があり、各運輸局毎に消費者行政課が設立されました。

以前の企画部に企画振興部と交通環境部が設置され、交通環境部の中に消費者行政課が設立されました。これにより地方におけるバリアフリー推進の強化が図られることとなりました。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/00/000628_.html

交通バリアフリー法基本構想策定状況

平成14年3月時点での市町村の基本構想作成予定の調査の結果、基本構想作成済み及び基本構想の作成を予定している市町村は594にのぼった。また、1日の乗降客数が5,000人を超える旅客施設が所在する市町村のうち、64%（573市町村中、368市町村）が基本構想を作成済みあるいは基本構想の策定をしていることが明らかになりました。

なお、594市町村の内訳は以下の通りです。

基本構想を作成済みの市町村 28市区町

福岡県福岡市、北海道室蘭市、広島県呉市、千葉県千葉市、山梨県石和町、大阪府守口市、鳥取県鳥取市、新潟県亀田町、大阪府交野市、大阪府八尾市、千葉県船橋市、北海道千歳市、大阪府堺市、福岡県大牟田市、東京都荒川区、富山県小杉町、福岡県福岡市、兵庫県明石市、香川県丸亀市、石川県金沢市、北海道恵庭市、埼玉県熊谷市、神奈川県相模原市、滋賀県守山市、大阪府河内長野市、広島県広島市、神奈川県秦野市、福岡県北九州市

既に協議会を設置し基本構想の作成に着手している市町村 47（44市1区2町）

平成13、14年度中に基本構想の作成に着手する予定の市町村 81（67市3区11町）

時期は未定であるが将来的には作成する予定の市町村 438（210市11区197町20村）

詳細に関しては、国土交通省総合政策局交通消費者行政課のホームページをご覧ください。

http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/barrier/mokuji_.html

みんなの駅パンフレットの作成

高齢者や身体障害者が駅等で困っている時に、気軽に手助けができるようにと、漫画のドラえもんをキャラクターにした小学生向けの副読本「みんなの駅・きみにもできる交通バリアフリー」を作成しました。全国の市町村教育委員会に配布し、「総合的な学習の時間などで役立ててほしい」としており、副読本では、切符を買うときに戸惑っているお年寄りを見かけたら、「どうしましたか」とゆっくり優しく声をかけたり、耳の不自由な人はメモ帳を持っていることも多いので、メモを利用してみたり、場所を聞かれたら進行方向をできるだけ指で示すようにすると、よりわかりやすくなります。目の不自由な人に対しては、「これ・それ・どれ」といった「こそあど言葉」を使わないようにすることなど、高齢者や身体障害者への対応を分かりやすく解説したり、ちょっとしたノウハウが載せてあります。

http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/01/010703_.html

(5) 各種催し物のお知らせ

交通バリアフリーセミナー

7月29日（月）13:30～16:30

東京都中小企業会館9F

お問い合わせ先：社団法人国土政策研究会 TEL03-5825-8956

第5回日本福祉のまちづくり学会 <http://www.jice.or.jp/fukushi/zenkoku-5.html>

8月8日（木）～10日（土）の3日間。

熊本市民会館（熊本市桜町1-3 TEL096-355-5235）にて開催。

土木学会全国大会第57回年次学術講演会

9月25日（水）、26日（木）、27日（金）の3日間

北海道大学（北海道札幌市北区北13条西8丁目）

第6回DPI世界会議 http://homepage2.nifty.com/dpi-japan/6_wa/waj/waj_top.htm

10月15日～18日の4日間

道立体育総合センターきたえる（北海道札幌市豊平区豊平5条11丁目）にて開催。
第26回土木計画学研究発表会（秋）大会

11月2日（土）～4日（月）

岩手大学（盛岡市上田三丁目18-8）

国際ユニバーサルデザイン会議2002 <http://www.ud2002.org/index-j.html>

11月30日～12月4日の5日間。パシフィック横浜にて開催。

連絡先：相鉄エージェンシー / パシフィック・コンベンション・サービス

TEL：045-450-7003 E-mail：info@ud2002.org

（6）その他

書籍に関して

交通エコモ財団では、現在バリアフリー関係の書籍、パンフレットを発行しております。ご興味のある方は、当財団のホームページをご覧ください。

http://www.ecomo.or.jp/barrier_free/bari_f_index.html

記事募集中！

現在、次号メールマガジンに掲載させて頂ける記事を募集中です。セミナーのお知らせや、活動報告、エッセイ等々何でも結構です。どしどしお寄せください。掲載をご希望の方は、メールかFAXでお送りください。

エッセイに関しましては、誠に申し訳ありませんが、掲載するか否かは編集担当に一任頂き、謝礼なし、とさせていただきます。

E-mail：ecomomail@ecomomail.jp FAX：03-3221-6674

お願い（必ずお読みください。）

・転送先について

このメールマガジンを発刊してから、多くの方からお申し込みを頂いております。ありがとうございます。おそらく、お読み頂いている方から、更にその他のネットワークに転送して頂いていることがあると思います。現在、どの様な所まで、このメールマガジンをお読み頂いているかを把握したいと考えております。転送して頂いている方は、そのネットワーク、もしくは団体のお名前と人数をお教え頂ければと思います。

E-mail：ecomomail@ecomomail.jp FAX：03-3221-6674

・送付先について

このメールマガジンをなるべくE-mailで送付させて頂きたいと思っております。アドレスをお持ちの方はご連絡ください。

E-mail：ecomomail@ecomomail.jp FAX：03-3221-6674

コラム

先日、ある会議に出席したら、ある方が何事も「十の議論より、一の実行だ」と話されてました。バリアフリー推進もこの考えが必要ですね。（反省）

台風一過すばらしい青空です（被害に遭われた方には申し訳ありません。）青空のように澄み切った天気の下で、一歩、一歩、池からはい上がり、蛙が前へ歩いている。蛙には関係ありませんが、たまにはマイカーをやめて鉄道やバスで動いてみませんか、そう言えば、以前は地下鉄の車両には冷房がなく、ホームを冷房していたように思いましたが、今は車両の中にも冷房が入ってますね。いつからそうなったのかなー、車両も知らず知らず進化して努力を続けているんですね。（事務局 岩佐徳太郎）